長洲町立長洲小学校　校長便り　No.１７

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和４年６月１７日(金)

《雑感》「五省」　～先人の教えに学ぶ～

私は書道を嗜むからでしょうか、形式美というものに強く惹かれます。芸術作品だけでなく、人間の行動様式も同じ視点で見てしまいます。運動会の集団行動などはまさにそれです。私は子ども達に、場面に応じた素早い行動と礼節を要求してきました。先日、自衛隊の訓練風景を目にすることがあったのですが、駆け足、５分前行動、礼儀作法、指揮命令系統の組織等々自衛隊の訓練に学ぶものは多いです。集団行動の美、形式美は現代人が最も苦手としているものなのです。自衛隊に限らず、警察や消防などの訓練は同じようなことが要求されます。私にはそのような姿が「当たり前」の姿に見えます。それは、社会集団の中で生きるために必要なことだと私は思います。

数年前、佐世保市に行くことがありまして、海上自衛隊佐世保資料館を見学しました。そこに「五省」という教えが掲げてありました。現在も海上自衛隊の方々が、「五省」を行動の拠り所にしているとのことです。当たり前を省みる、良い教えだと思いましたので紹介いたします。

五省(ごせい)

一、至誠(しせい)に悖(もと)る勿(な)かりしか…真心に反する点はなかったか
一、言行に恥づる勿かりしか　…言行不一致な点はなかったか
一、気力に缺(か)くる勿かりしか　…精神力は十分であったか
一、努力に憾(うらむ)み勿かりしか　…十分に努力したか
一、不精に亘(わた)る勿かりしか　…最後まで十分に取り組んだか

まず、「至誠」、当時の「至誠」は国に対しての奉仕の精神だと考えられますが、現代においては自分の仕事と人と接する時の真心、誠実さを意味していると私は思います。人に誠実であることは人付き合いにおいて非常に大切です。

「言行」は私自身、常に自戒する場面が多いことの一つです。近年、多くの不祥事を耳にしますが、恥ずかしくない行動をし、それが言葉と一致しているならば、不祥事など起こりようがありません。もし恥ずべきことをしている当人が恥じるという心を失っているとすれば、人間としては如何なものでしょう。

苦境にあるときほどだれしも「気力」がなえがちであり、「努力」を重ねても成果が出ないと、ムダなことをしているのではないかという気持ちに陥りやすいものです。逆境にあるとき、いっそう気力を奮い立たせることができるか、さらに努力を重ねることができるかが成長の分かれ目と言えますね。

「不精」は、私にとっては一番身近な反省すべきことです。面倒くさいことを先送りしたり、今できることを先に送ったり…。不精も時には良いかと思う自分もいますが、度が過ぎてしまっては無意味です。

五省は私達現代人にとって反省、自戒する上で貴重な示唆を与えていると思えてなりません。海上自衛隊で今でも使われているこの先人の教え、皆さんはどのように解釈されますか。社会生活を営む上で役立つことがこもっていると思いますが…。

シリーズ「自分を語る」#17

４５年ほど前の12月年末のひと時、澤田家はクリスマスケーキで一杯でした。懐かしい。裕福な家庭だからケーキが一杯あったという訳ではありません。父がフタバパンというパン工場に勤めていた関係で、クリスマスケーキの注文を取っていたからです。両親は言います。

「あの当時、働けば働くほどお金が貰えた。郵便局の利子も高かったから、貯金ばかりしよったなぁ。いつの間にかお金が増えるし、仕事が楽しかった。」両親は午前中に親戚がやっている水道の配管工事を手伝い、午後から父はパン工場へ行き、母は家電部品のハンダ付けの内職（この内職はたまに手伝わされました。）、考えてみると、夢や希望のある時代だったのかなぁと感じます。

あの頃は2部屋しかない狭い団地でしたが、とても楽しかったことを覚えています。ケーキで足の踏み場もない状態でしたが、そのケーキの配達を手伝いながら、最後に残ったケーキが我が家のもので、どれが我が家のケーキかを考えるのも、とても楽しいものでした。開けるときはドキドキしました。そしてサンタクロースに頼むのはきまってプラモデル。休みに入るとすぐに作り始めるのが定番でした。そして宿題を終わらせているというのが条件で、大晦日には夜更かしがOKになり、その時もプラモ作り。とにかく楽しかったです。あの頃に戻りたいとは思いませんが、たまに童心に戻るのも大人には必要な時間ですね。保護者の皆様にも私と同じ様な思い出があるのではないでしょうか？

そろそろ、中学を意識し始めた6年生後半ですが、まだ小学生ですので、色々な誘惑には弱いものです。私はどうしてもマンガ本とプラモデルに弱かったです。特にプラモデルを作るときは、ご飯を食べるのも忘れて没頭するので、母からゲンコツをもらっていました。誕生日にはいつもプラモデルをおねだりするのですが、価格の上限が設定されるんですよ、あれが辛かった。お店に行って「これいいなぁ」って思っても、それが高いんです。だから、子どもながらに作戦を練ります。「正月のお年玉を合わせて買ってもいい？」って反撃するんです。でも、お年玉の行方はいつもあやふやなまま、母がコントロールするのです。頂いたお年玉は、母が「預かっておく。」「教のために貯金しておく。」と言って、少しだけ何か買ってもらうというパターンです。そうそう、母が言っていた言葉「あんたのために貯金しとく。」今になって思うのですが、一理ありますよね。子どもの頃はなかなか理解できないこの言葉でした。

最近、子ども達のお金の使い方については、私は大いに危惧しています。簡単に奢ったり、奢られたり、親の財布から取ったり…。友だち、特に永く親友として付き合っていく友だちを作るためには、何が必要なのでしょうか。そんなに難しいものではありません、心に寄り添うことです。お金で友だちを買うなんてできる訳がありません。逆に減っていきます。そもそもお金は誰がどのようにして頂いてくるのか、その使い道等々、子ども達に多くのことを伝えなければと思う澤田です。ご家庭でも、是非話題にしてください。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）